

2025年始にあたり、皆様のご協賛ご協力に 謹んで感謝申し上げます。

●「人間は長いあいだ暴力の支配を受けているあいだに、何度かこれに反逆してみても、結局は敗北によって無力となり、沈黙し、ただなにかをじっと待つだけの人間になってしまう。年月が経てば、怒りはその炎を弱め、怒りが怒りとしての熱さと力を失い、ただひたすら耐えて生きてゆく。孤独に逃げ込むことはむしろ容易なのだ。人間は耐えた結果、ついに怒りを忘れる。それまでの一切を忘却のかなたに置き去りにし、次第に目を別の方向に移していく」これは『百年の孤独』文庫版発刊で2024年出版界をにぎわせたガルシア＝マルケスの『大佐に手紙はこない』という小説の翻訳者・内田吉彦氏の解説のなかの一節です。翻訳者の内田吉彦氏とはCUBAPON＝日本キューバ連帯委員会の活動を通じてかつて面識のある方だったので、内田吉彦訳のガルシア＝マルケスの本が手元にあり最近再読していました。



2024 秋ベトナムアンサンブル枯葉剤被害者支援チャリティーコンサートから／ベトナムの人気のダンサーBaoBaoの踊りの模様

その解説文の一節が妙に「慣らされ、飼われていく」ような昨今の日本の世相と重なり心の襷に残ってしまいました。

●自由な活動が制約されているコロナ禍の2021年1月のIFCCレター84号で以下のように“忘却”を戒めていました。

「銃口を向け合わない友人知人を国境を越えて思い浮かべる交流を」めざし、これまで多くの分野で国際交流を行ってきました。事実を覆い隠し意図的あるいは無意識に忘れ去った「歴史」が「今」を覆っています。今年も可能なかぎり、“忘却に抗(あが)い”“流されず”活動を継続していきたいと思えます」
「法華経に「化城宝処(けじょうほうしよ)」という喩えがあるそうです。意味を咀嚼すると、先が見えない時でも「仮の目標を描き、向かい歩き続ける」、「到達できなかつたらまた目標を描き、向い」目標を達成する——ことだそうです」

2025年を皆様のご教授と叱咤を乞い日々三省しながら、強かに生きていきたいと思えます。(鎌田)

■IFCC 国際友好文化センターは

・2024 秋のベトナム戦争枯葉剤爆弾被害者支援のためのベトナムアンサンブルチャリティーコンサートは 27 回目の年数を数え、10 会場 13 公演となり、うち 4 公演実委から追加の寄付金もいただき久しぶりに手ごたえを得た事業となった。

公演の年回数はコロナ下での中止(2020年、2021年)があったため2025年は28回目となるが、このチャリティーコンサートによる枯葉剤被害者支援活動は今年＝2025年で30年を迎える。

枯葉剤被害の現状と実相が硝煙漂う昨今の状況に對峙できれば幸いだ。戦争犯罪が人間の存在と尊厳を破壊することを、立ち止まることなく広報し続けたいと思う。

■日本キューバ連帯委員会(CUBAPON)は

・2024年7月30日でCUBAPON結成30周年だった。記念行事を検討することにしていたが、組織の体力減で実現できていない。

・2023年11月実施の訪問団のレポート『経済封鎖下のカリブの社会主義XXII号』(2024年3月)が発行され、関連した『フェイクに抗うIFCC情報』は7回発信された。

・ICAP 総裁来日に合わせ第8回キューバ友好の集いが10月25日開催された。「第10回キューバ連帯アジア太平洋地域の集い」(2024年10月29～30日)於北京で開催されたが財政と人材の面で参加できず。

・今、キューバの生存が危機的状況だ。2025年を「連帯を届ける活動強化の年に」したい。(CUBAPON 会報の参照)。

■NPO 日本ベトナム平和友好連絡会議(JVPF)は

・2024年は、ベトナム北部・ハザン省で日越友好植林事業の、第二期(シナモン、3・5ha)を開始し、併せて第一期2年目の事業が続けられた。ただ、この事業は日本政府の

助成が中止されたため、継続できなくなった。

・2024年1月の訪問団は北部ハザン省の少数民族寄宿中学校で40人に奨学金支援、同地区のヴイスエン公立中学校で20人の奨学生支援を実施。次年度贈呈が



日越植林プロジェクトで第一期2年目のスターアニス事業地を視察する日本からの技術者と現地の少数民族の住民たち(2024/11/5、ハザン市)

2025年1月18日実施の訪問で行われる予定。

・鹿児島 JVPF 主宰でバクザン省リョクソン地区中学校での少数民族学生奨学金(20人×3,000,000VND)が開始され、贈与式を2024年5月22日実施。2025年(学年度は2024年)の贈呈は2025年5月の予定。

・枯葉剤爆弾被害支援活動は2024年1月、ハザン省で枯葉剤爆弾被害貧困家庭支援『仁愛の家』寄贈活動、トゥエンクアン省で被害家庭の慰問・調査を実施。次年度も同地域で2025年1月18日催行の訪問団が実施予定。

・2025年はベトナム南部解放・統一50周年だが、その闘争が教えてくれた世界平和と共存の理念は“忘却”の危機のようだ。

■中国での交流活動は



東京近隣の方々に声掛けし懇親会を持った(2024/10/29 小石川後樂園・涵徳亭前)

・交流活動は停滞している。振り返ると2019年には「日中友好植林」や「村山談話を継承する平和の旅」の活動があったので、「激変」はたった

数年前のことだ。

・「朋あり、遠方より来る、また楽しからずや」。長い年月の友人・劉憲良さんが中国から来日し訪ねてきてくれた。IFCC 企画で訪中された多くの方々がお世話になった人だ。絆を失わないよう歩もうと思う。

御礼

2024 枯葉剤被害者支援ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート報告

2025年——活動30周年に向けて

この度は、ベトナム戦争枯葉剤被害者支援のための「2024 ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート」(企画：IFCC 国際友好文化センター、共同企画：JVPF 日本ベトナム平和友好連絡会議)に御協力頂きありがとうございます。

アンサンブルメンバーは、2024年10月10日に来日し、10箇所13回のチャリティーコンサート、1箇所の文化交流演奏会(東京・練馬区中学校)を行い10月25日に帰国いたしました。来場者は約3,200人、チケット購入協賛者は4,000人ほどになりました。

この活動は2024年で29年を数え、コンサート年数は27年(2020年、2021年は中止)となり、累積で408会場、来場者数約121,900人を数えることになりました。

1961年の枯葉剤爆弾投下から64年、2025年はベトナム戦争南部解放・統一50周年を迎えていますが、今なお“わたしの体の中では戦争が終わっていない”というベトナム戦争・枯葉剤爆弾被害者の叫びに応える活動の役割が高まっているようです。

小さくともこの活動の灯を燃やし続けたく思っております。

2025年1月
IFCC 国際友好文化センター
理事長 鎌田 篤則

2024公演収支報告(2024/10/10~10/25 16日)

【支出】	
招請経費	1,172,600
国際航空運賃、出国TAX 11人	
移動費	1,398,840
バス代(高速、駐車代含む) 9日間	
滞在費	1,687,416
宿泊費、飲食費、他(15泊)	
事務局費	570,320
人件費、添乗費、出張費、通信・送料、他	
宣伝物作製費	210,532
プログラムパンフ	
保険料	70,560
物資販売仕入れ	367,640
公演製作費(謝礼含む)	1,170,751
支援事業関連経費	317,980
進捗管理費(25年1月派遣経費)	
支援金	265,782
24「仁愛の家」寄贈事業、調査慰問	
支出計	7,232,421

【収入】	
繰越金	-669,498
23借入分	
公演謝礼金(10会場)	5,776,000
協賛広告費	330,000
こくみん共済、労金協会、山下事務所、藤印刷(有)アイエフシー、(社)連合会館	
物資頒布	613,960
寄付	1,161,959
会場カンパ、公演地追加寄付(福山20,000円、吉川272,000円、さぬき90,000円、延岡30,000円)	
自己資金	0
借入	0
収入計	7,232,421

2024度「仁愛の家」寄贈活動 JVPFの支援事業見込み(2025/1/6)		
支出	仁愛の家寄贈一式	930,000
	調査慰問事業	125,782
	労賃・機材費等	744,000
	進捗管理費(旅費)	317,980
		2,117,762
収入	JVPF個人カンパ	190,000
	連合・愛のカンパ	600,000
	24コンサート事業より繰入	583,762
	現地便宜供与	744,000
		2,117,762